

日本ーノルディック公開シンポジウム  
大学評価をどう活かすか  
ー北欧の成功から学ぶー

## 開会挨拶

---

木村 孟

大学評価・学位授与機構長

Thodur Aegil Oskarsson

アイスランド大使

〔司会：加藤 敏雄 大学評価・学位授与機構 評価事業部長〕



**(加藤)** 時間になりましたので、ただいまより「日本—ノルディック公開シンポジウム『大学評価をどう活かすか—北欧の成功から学ぶ—』」を開催いたします。

本日、進行を務めさせていただきます大学評価・学位授与機構の評価事業部長をしております加藤です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の予定ですが、皆様の配付資料の中のプログラムをご参照いただきたいと思います。資料の不足等がございましたら、お手数ですが、場内にスタッフがおりますので、お申し出いただければと思います。

また、併せまして配付資料の中に1枚もののアンケート用紙が入れてあります。当機構の今後のシンポジウムの開催に当たりまして、参考にさせていただきたいと思っておりますので、ぜひともご記入をいただきますようお願い申し上げます。なお、ご記入いただきましたアンケート用紙は、本シンポジウム終了後に会場の出口でスタッフが回収させていただきます。また、本日受付をしていただきました、2階の受付にも回収箱を用意していますので、よろしくお願い申し上げます。

**(加藤)** それでは、はじめに主催者を代表いたしまして、大学評価・学位授与機構長、木村孟から開会の挨拶を申し上げます。

**(木村)** 「日本—ノルディック公開シンポジウム『大学評価をどう活かすか—北欧の成功から学ぶ—』」と題しましたこの非常に記念すべき会合で皆様にご挨拶できますことを、大変名誉に存じます。

まず、本日このシンポジウムにご臨席のオーゲ・ベルンハルト・グルットレ駐日ノルウェー王国大使閣下、トーズル・アイギル・オスカーソン駐日アイスランド共和国大使閣下、フレディー・スヴェイネ駐日デンマーク王国大使閣下に心からお礼を申し上げます。皆様のご臨席は、本シンポジウムの価値を非常に高めるものであります。

そして遠路はるばる北欧諸国からお越しくくださった、ノルウェー生命科学大学教授ならびにノルウェーのNOKUTの理事会の議長である Roger K. Abrahamsen 様、NOKUT 副所長 Tove Blytt Holmen 様、アイスランド教育科学文化省 教育室長の Solrun Jensdottir 様、デンマークのEVAのエグゼクティブ・ディレクターである Christian Thune 様、フィンランドのFINHEECの事務総長である Ossi Tuomi 様、スウェーデン高等教育庁評価部シニアアドバイザーの Staffan Wahlen 様の皆様にも心からお礼を申し上げます。

日本からも九州大学の梶山総長、文部科学省大臣官房の磯田審議官、慶應義塾常任理事の工藤教授、国立高等専門学校機構の河村理事、朝日新聞社の清水論説委員にご参加いただき、心から感謝申し上げます。

北欧諸国は1980年代に高等教育改革に着手し、2000年には外部評価システムが確立されています。この北欧の成功に学ぶべく、日本の277もの大学が北欧諸国の大学と何らかの形で協力関係を結んでいます。

北欧地域の高等教育の質を高め国際競争力をつけるために、北欧諸国は欧州全域を対象とする欧州高等教育質保証協会（ENQA）への参加とは別に、北欧高等教育質保証ネットワーク（NOQA）を設立しています。私たちはこの北欧諸国の取り組みと結束力に非常に感銘を受けています。日本は、アジア太平洋質保証ネットワーク（APQN）のメンバーとして、この北欧諸国の経験から多くを学ぶことができると思います。このようなシンポジウムを主催した理由はそこにあります。日本から何か参考にしていただけるものがあるかは分かりませんが、本シンポジウムが両地域の大学教育の質の向上に寄与することを心から願っております。

本シンポジウムは、まずEVAのエグゼクティブ・ディレクターである Christian Thune 博士から基調講演をいただき、続いて北欧各国の方々の発表、そして、2つのパネルディスカッションを行います。パネルディスカッションではぜひ皆様の活発なご参加を期待しております。

最後に、本シンポジウムの開催にあたって文部科学省、朝日新聞社、ならびに北欧諸国の駐日大使館の皆様がお寄せくださったご支援に心から感謝申し上げます。それでは、本シンポジウムの成功を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**（加藤）** ありがとうございました。

次に北欧5か国を代表して、アイスランド大使の Thordur Aegir Oskarsson 様より、開会のご挨拶をいただきます。Oskarsson 様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**（Oskarsson）** 木村大学評価・学位授与機構長、北欧諸国、文部科学省、朝日新聞社の各代表の皆様、そしてご参加の皆様。デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、アイスランドの大使館を代表いたしまして、本日、現代社会にとって非常に重要なテーマである高等教育の質保証に関するシンポジウムでご挨拶申し上げることを大変嬉しく、また光栄に存じます。

世界では、人類史上今までに経験したことのない規模でグローバル化が進行しています。グローバル化は主に産業界で見られますが、同時に社会および社会生活にも大きな影響を与えており、特に教育には多大な影響を及ぼしています。グローバル化は主として情報ビジネスによって牽引されているため、情報ビジネスにおいては教育、研究、イノベーションが非常に重要な要素です。したがって、グローバル化の進展を維持するために、教育制度には非常に厳しい要求が課されることになります。

政府は、国際競争の激化に対応するため教育政策に重点を置き、グローバルな競争に最も対応できる人材の育成に努めています。グローバルな競争には知識や情報が大変求められます。このことは、社会の最重要セクターにとっての知識・イノベーション拠点である、大学その他の高等教育機関の重要性を浮き彫りにしています。

グローバル化の急速な進展は、競争に取り残された者を容赦なく置き去りにしていきま

す。将来競争は、イノベーションを生み出す能力が持てるか、また他に模倣されにくい価値創造のソリューションを生み出すことができるかという競争にますますなっていくでしょう。これには強固で革新的な文化を生み、保持すること、そして独自のコアスキルを活かす能力が求められます。グローバル競争に勝つためには、同時に地域レベルでも成功を収めなければなりません。そこで、教育制度の質が重要になってきます。

比較的小さな国である北欧5カ国が成功した一つの大きな要因は、国民の教育レベル・質の高さであることは間違いありません。北欧諸国は社会・経済システムも発達しており、世界でも最も豊かな地域となっています。この5カ国は、ほんの例を挙げるだけでも福祉、競争力、技術力、創造性などの分野で常に世界トップ10にランクされています。

北欧諸国の教育制度の国際化は新しい動きではありません。高等教育の分野では長年にわたり協力関係を築いており、大学の入学条件や成績の相互認証という広範な制度の確立に至っています。このような状況の下、北欧では1992年に質保証活動が開始され、関連機関の間で高等教育の評価や質保証に関する意見や経験の共有が始まりました。

先ほど申し上げたように、グローバル化の要求に応えるためには過去の栄光や現在の実績にすぎることではできません。重要なのは、将来の課題にどう立ち向かうべきかなのです。北欧各国は、質の保証に努めるとともに、教育をめぐる新たな国際課題や政策への対応能力を高めるために、高等教育の水準に関して法的枠組みの見直しを始めています。

北欧5カ国の政府首脳もこの新しい課題を十分に認識しています。2004年6月9日には、高等教育に関する教育大臣会合がアイスランドのレイキャビクで開かれ、特別宣言が発表されました。この会合では、北欧各国の大学教育の相互認証と質保証に関してより集中的に作業を進めることの重要性が強調されました。

北欧諸国のみならず、ヨーロッパ全体でも高等教育の質の重視が前面に押し出されるようになってきました。重要な動きの一つに、1999年に開始された「ボローニャ・プロセス」があり、現在欧州45カ国が参加しています。ボローニャ・プロセスのコミットメントには拘束力はありませんが、2010年までに汎ヨーロッパの教育制度を確立するという政治的目標があります。この目標は2005年にノルウェー・ベルゲンで開催された、ボローニャ・プロセス参加国の教育大臣会合での総括文書でも強調されました。

私たちの願いは、本シンポジウムによって高等教育の質の向上・保証に関する北欧諸国と日本の協力が促進されることです。大使館はこの問題について専門知識を有するものではありませんが、日常生活における重要課題であることは認識しています。日本に対する北欧諸国の関心は高まっており、そのことは協力パートナーを求める学生や学術機関からの問い合わせの多さにも表れています。同様に北欧諸国に関する日本の皆様の関心も高まっています。こうした状況の中で、教育の質に関する適切な評価メカニズムが整備されるよう、大使館としてこの点に関する基本情報を提供することは大変重要なことです。

そのような意味で、私たちは大学評価・学位授与機構主催の本シンポジウムを歓迎し、心からご成功をお祈り申し上げます。ありがとうございました。